



小特集

ワークライフバランス

編集にあたって

木塚あゆみ | 大阪芸術大学

本会に Info-WorkPlace 委員会という委員会ができて、3年になります。2016年度から2017年度までは女性IT技術者を支援の対象とし、本会の立場から「女性の活躍の場（Work Place）を支援する」という名目でさまざまなイベントを企画・運営してきました。しかしながら、女性IT技術者を支援するだけでは不十分であることが分かりました。周囲には育児や介護といった女性IT技術者と同じ問題を抱えている人が性別を問わず存在します。女性IT技術者にとっては、女性だけでなく、多様な人が一緒に活躍できる場を実現することが活躍のしやすさにつながるのではないかと考えました。多様性を担保したコミュニティが「みんなの活躍の場（Work Place）を支援する」ことにつながると考え、2018年度からこの委員会は女性IT技術者支援組織

から多様性を持った支援組織へと変わることになりました。

これまで育児や介護などのライフイベントは女性だけに関係のある問題として捉えられることが多かったように思います。最近になってようやく育児や介護にかかわる男性が抱える問題もクローズアップされてきましたが、まだその問題解決のノウハウ共有が不十分です。一方で、情報処理分野では自らの専門性を活かしてリモートワークやフレックスタイムを利用した新しい働き方がどんどん生まれています。しかし「出産や育児をどのように乗り越えればいいのか?」、「具体的にどんなことに困っているの?」、「介護と仕事はどうやったら両立できるの?」といった疑問や悩みも尽きません。そこで、本会の企画イベントを通じてさまざまなライフイベントを



乗り越えるために必要なヒントを公開したいと考えました。

本会第81回全国大会で企画したイベント「来たれ！ワークライフバランス伝道師」では、本会の研究会や委員会に協力してもらい、ワークライフバランス実践報告を募集しました。集まっていた9名の方々に10分間のプレゼンテーションを行ってもらいました。そして優秀な報告をされたということでプレゼンター全員に「ワークライフバランス伝道師」の称号を付与しました。さらに、このワークライフバランス伝道師の話を広めてもらおうと思い、イベントに来場いただいた方に『ワークライフバランス伝道師』の称号を付与させていただきました。

この企画「来たれ！ワークライフバランス伝道師」

では、有意義なワークライフバランス実践例を聞くことができました。この実践例を多くの人に広めたいと考え、イベントに登壇いただいた方に執筆いただき小特集としました。執筆者は情報処理分野に携わる研究者やエンジニアの方々です。それぞれに違う家族構成で、違う暮らしをし、それぞれに違う価値観があります。悩みや楽しみもそれぞれ違うでしょう。どの事例もその方々の試行錯誤の結果です。正しいやり方はありません。今回読んでくださる方に直接参考になることは稀かもしれませんが、自分の生き方や周囲の人々とのかかわり方を考えるきっかけとなれば幸いです。

(2019年6月5日)